



幼保小中一貫教育プロジェクト 阿久比町中学生平和体験事業

町では、毎年8月5日、6日に、阿久比中学校1年生を広島へ派遣する中学生平和体験事業を実施しています。事業は平成10年に始まり、今回も生徒がさまざまな体験をしてきました。今回は生徒の手記から、彼らが学んできたことをお伝えします。

■ 問い合わせ先 学校教育課学校教育係 ☎(48) 1111 (内1230・1231)

(敬称略)

【溝上芽依】

原爆ドームは戦争が二度と起こらないようにという願いを含め、74年間戦争や核兵器の悲惨さを静かに伝え続けるために永久保存されています。戦争の怖さを知らない私たちだからこそ、こうした現状を知るべきではないかと強く思いました。日頃の生活が当たり前だと思わず、ありがたく思うことが大切であると気付きました。一人でも多くの人に平和運動のことを伝えていきたいと思います。



【小野花純】

今回の研修で、事前に調べたときよりもはるかに上回る原爆の恐ろしさや悲惨さを肌で感じました。資料を見たり、被爆された方についての話を聞いたりして、今の時代からは想像できない戦争の悲惨さを知りました。原爆投下から74年がたち、生存する被爆者の数は年々少なくなっています。私は研修の後、家族や友達と、原爆について話をしました。日本は、世界唯一の被爆国として、これから生きる人たちに過去に起こった悲惨な出来事を伝える機会を増やすことが大切だと改めて感じました。



【西川結菜】

私は、今まで広島の前爆のことを少ししか知りませんでした。想像を絶する恐ろしい兵器だったのだと知りました。この恐ろしい兵器が使われる悲惨な戦争が二度と起こってはいけません。私は、この世の中から戦争がなくなり、世界がいつまでも平和で仲良くられるように、自分にできる平和運動へ積極的に参加したいです。また、世界中のみんなを笑顔にできるように、まずは身近にいる人を笑顔にしたいと思います。



【石川友博】

今回の研修で、被爆者の井口健さんの「正義の戦争はない」という言葉が心に残りました。世界中で人々が平和を願っているのだと、広島平和式典で強く感じました。原爆ドーム、平和記念資料館の見学では、今まで知らなかった戦争や原爆のことを詳しく知ることができました。僕も、この衝撃的で貴重な体験をたくさんの人たちに語り継いでいきます。二度と悲惨な戦争を繰り返さないように、自分にできる平和運動などへ積極的に参加したいです。

